

事業承継支援コンサルティング研究会

2022年1月 事例研究

I 事業承継の必要性を理解させる

事例

あなたは事業承継支援の専門家です。信用金庫の営業担当者から紹介され、中小企業の経営者（佐藤社長：75歳）との初回面談を行うこととなりました。

佐藤工業（株）、自動車部品の製造業、本社神奈川県、創業 1950 年
売上高 10 億円、従業員 50 人
株主は佐藤社長 1 人（発行済株式 100%）

佐藤社長は、長男の一郎氏（48歳）へ事業承継することは考えていません。一郎氏は、現在、日本を代表する大手自動車メーカーで営業職として働いており、家業である佐藤工業を承継するつもりがないからです。

また、佐藤社長は、仕事が好きでたまらないため、死ぬまで働きたい、社長を引退するつもりはないと話しています。

事業承継支援の専門家であるあなたは、佐藤社長との面談においてヒアリングを行いましたところ、以下のような論点が出てきました。あなたはどのような指導を行いますか？

なお、会社の事業性（技術力、顧客ニーズ）に大きな問題はなく、経営管理体制は良好です。

【問1】 親族内承継できない状態ですが、佐藤社長は事業承継について何も考えていないようです。あなたはどのように指導しますか？

数日後、あなたは、佐藤社長の長男の一郎氏と面談する機会がありました。一郎氏は、勤務先の会社を辞めて、電気自動車向けの部品を製造する事業で

事業承継支援コンサルティング研究会

2022年1月 事例研究

自ら起業したいと話していました。あなたは、一郎氏は起業するよりも、事業承継すべきではないかと考えました。

【問2】 あなたは、一郎氏に対して、「佐藤工業を承継して、会社の新事業としてやりたい事業を開始すべきだ」と指導したところ、一郎氏は「既存の事業を変えることなんて不可能でしょう」と心配しています。この点、どのように指導しますか？

以上